

## 《文しょうもんだい9》

文しょうもんだいをやつてみよう。答えを文しようの中からみつけよう。

### 【れいだい】

つぎの文しょうを読んで、とくに答えよう。

さて、夜になりました。きょうは一年にいちど、星がふる日です。この村では、星のふる日にねがいごとをすると、何でもかなうという言いつたえがあります。そのため、毎年この日になると、村はおまつりさわぎになります。

「カケルは何をおねがいするの。」

ミノルがカケルに聞きました。

「ひみつだよ。だつてミノルに教えたら、ねがいごとが、かなわなくなつてしまふだろう。」

そうなのです。星のふる日にするねがいごとは、だれにも言つてはいけないのです。もし、だれかれにねがいごとを言つてしまつたら、そのねがいはいつしきうかなわないと言つたえられているのです。

(とい) 本文のないようと同じものを、アからウか  
らえらぼう。

ア 星のふる日にするねがいごとは、みんな  
に教えないといつしょくかなわない。

イ 星のふる日にするねがいごとは、だれに  
も言つてはいけない。

ウ 星のふる日にするねがいごとは、ミノル  
に教えないとかなわない。

### 【答え】イ

### 【かいせつ】

本文のないようと同じものをえらぶためには、まず本文のどこに書かれているかをさがします。アは、「みんなに教えないといつしょくかなわない」とは書いていないのでまちがいです。イは、「星のふる日にするねがいごとは、だれにも言つてはいけないのです」と書いてあるので答えになります。ウは、「ミノルに教えたら、ねがいごとが、かなわなくなつてしまふだろう」とあるので、まちがいです。

つぎの文しようを読んで、どいに答えよう。

「おれにふみつぶせないものなんてないんだぞ。  
お前もふみつぶされたいのか。」

ぞうのルーカスは、おこるとすぐにこう言うので、まわりのなかまはいつもびくびくしていました。ある日、ハリネズミのピーターがルーカスのなかまになりました。ピーターはルーカスに聞きました。

「どうしてルーカスは、いつもみんなをこわがらせているんだい。」

すると、ルーカスはこう答こたえました。

「おれきまに、ふみつぶせないものなんてないからだ。それに、おれが一番からだが大きいからだ。」

そう言つてわらうルーカスに、ピーターは言いました。

「ぼくは、ルーカスでもふみつぶせないものを知つてゐるよ。どうだい、ためしてみるかい。」

ピーターのことばにおこつたルーカスは、ちょうせんしてみるとことにしました。

「じゃあ、ぼくをふんでみてよ。」

「おいおい。小さなお前なんて、あつというまに  
ペちゃんこになるぜ。」

ルーカスはわらいながら、ピーターをふもうとしました。すると、

「イタツ、イタタタタ。」

ルーカスがとつぜん、大きな声こゑを出しました。ピーターが、からだのはりをぴんつとのばしていました。足のうらにはりがささつたルーカスは、なみだ目めになつてしましました。ピーターは、「ねつ。大きなルーカスにもふめないものがあつたでしよう。」

と言つて、につこりわらいました。

(一) ルーカスは、なかまといると、どんなことをしますか。アからウからえらぼう。

ア おこると「ふみつぶすぞ」と言つてみんなをこわがらせる。

イ みんなに「ふみつぶすぞ」と言われてびくびくしている。

ウ おこると「ふみつぶすぞ」と言つて、みんなを楽たのしませる。



(2) 一線ぶ「じゃあ、ぼくをふんでみてよ。」と言つたのは、だれですか。

(3) なぜルーカスは、大きな声を出したのですか。

□に入ることばを書こう。

のうらに

が

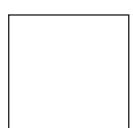
から

(4) 本文のないようと同じものを、アからウからえらぼう。

ア ピーターはおこるとみんなに「お前もふみつぶされたいのか」と言つていた。

イ 足のうらにはりがささつたピーターは、なみだ目になつた。

ウ ルーカスにふまれそうになつたピーターは、からだのはりをぴんとのばした。



つぎの文しようを読んで、どいに答えよう。

「いちについて、ようい……。」

大きなピストルの音とともに、しようたは走り出しました。きょうは、うんどう会です。しようとたは、この日のために、ひみつのれんしゅうをしてきました。

一週間前、しようたは友だちのたいきと、どつちがはやく走れるかケンカになりました。二人とも自分がはやいと言うので、うんどう会でけつちゃくをつけることにしたのです。

しようたとたいきは、いつしょに走り出しました。二人とも、今のところ一番です。あともう少しでゴールです。

「ぜつたいに、たいきにはまけない。」

そうつぶやきながら、しようたがさいごの力をふりしぼろうとしたときです。となりで走つていた、たいきがころんできました。しようたは、まよいました。このまま走つていけば、たいきにかかる。でも、たいきの足からちが出ているのに、そのままにしておいていいのだろうか。なんでしょうたは、たいきのところへ走り出しま

しようたは、たいきにかたをかしてあげながら、二人でいっしょにゴールしました。二人とも一番は手に入れられなかつたけれど、大切な友だちを手に入れました。

した。

(1)なぜ、しようたはひみつのれんしゅうをしていたのですか。□に入ることばを書こう。

どちらがはやいか、

をつけることに

で

したから

(2)ころんだたいきを見て、しようたはどうしましたか。アからウからえらぼう。

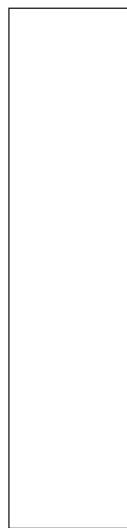
ア　たいきにかつために、そのままゴールした。イ　たいきにかたをかしてあげて、二人でゴー  
ルした。

ウ 足からちがでているたいきを、ほけん室しつへはこんだ。

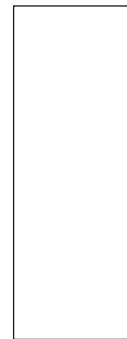
(3)

しようたとたいきがゴールをして手に入れられなかつたものと、手に入れたものは何ですか。

手に入れたもの



手に入れられなかつたもの



つぎの文しようを読んで、どいに答えよう。

ある日、ハリネズミのピーターがぞうのルーカスのなかまになりました。ピーターはルーカスに聞きました。

「どうしてルーカスは、いつもみんなをこわがらせているんだい。」

すると、ルーカスはこう答えました。

「おれさまで、ふみつぶせないものなんてないからだ。それに、おれが一番からだが大きいからだ。」

そう言ってわらうルーカスに、ピーターは言いました。

「ぼくは、ルーカスでもふみつぶせないものを知っているよ。どうだい、ためしてみるかい。」

ピーターのことばにおこつたルーカスは、ちょうせんしてみるとしました。

「じゃあ、ぼくをふんでみてよ。」

「おいおい。小さなお前なんて、あつと言うまに

ペちゃんこになるぜ。」

ルーカスはわらいながら、ピーターをふもうとしました。すると、

「イタツ、イタタタタ。」

ルーカスがとつぜん、大きな声こゑを出しました。ピーターが、からだのはりをぴんつとのばしていましたのです。足のうらにはりがささったルーカスは、なみだ目になつてしましました。ピーターは、

「ねつ。大きなルーカスにもふめないものがあつたでしきう。」

と言つて、につこりわらいました。

(1) ルーカスのなかまになつたのは、だれですか。

□に入ることばを書こう。

の

(2) どうしてルーカスは、ピーターのことばにおこつたのですか。アからウからえらぼう。

ア ルーカスでもふみつぶせないものがあると言つたから。

イ ルーカスなら何なんでもふみつぶせると言つたから。

たから。



ウ ルーカスにふみつぶせるものがないと  
たから。

(3) ルーカスにふまれそうになつた。ピーターは、  
どうしましたか。□に入ることばを書こう。

と

た

からだの

を

つぎの文しようを読んで、どいに答えよう。

「いちについて、ようい□□。」

大きなピストルの音とともに、さくらは走り出しました。きょうは、うんどう会です。さくらは、この日のために、ひみつのれんしゅうをしてきました。

一週間前、さくらは友だちはるなど、どつちがはやく走れるかケンカになりました。二人とも自分がはやいと言うので、うんどう会でけつちゃくをつけることにしたのです。

さくらとはるなは、いつしょに走り出しました。二人とも、今のところ一番です。あともう少しどうです。

「ぜつたいに、はるなにはまけない。」

そうつぶやきながら、さくらがさいごの力をふりしぼろうとしたときです。となりで走っていた、はるながころんてしまつたのです。さくらは、まよいました。このまま走つていけば、はるなにかかる。でも、はるなの足からちがいでいるのに、そのままにしておいていいのだろうか。なやんださくらは、はるなのところへ走り出しました。

さくらは、はるなにかたをかしてあげながら、二人でいつしょにゴールしました。二人とも一番は手に入れられなかつたけれど、大切な友だちを手に入れました。

(1) さくらがさいごの力をふりしぼろうとしたとき、何がおこりましたか。□に入ることばを書き、何がおこりましたか。□に入ることばを書かこう。

しまった

が

となりで走つていた

しまった

(2) ころんだはるなを見て、さくらはどうしましたか。アからウからえらぼう。

ア 足からちがいでいるはるなを、ほけん室へはこんだ。

イ はるなにかつたために、そのままゴールした。ウ はるなにかたをかしてあげて、二人でゴールした。



(3) さくらとはるながゴールをして手に入れられなかつたものと、手に入れたものは何ですか。

手に入れたもの

手に入れられなかつたもの



つぎの文しようを読んで、とくに答えよう。

「おうい。だれかおらんかのう。」

おじいさんは、海にむかってさけびました。でも、だれもへんじをしてくれません。

おじいさんは船の上で魚つりをしていました。ぽかぽかと太ようの当たる船の上で、おじいさんはついうとうとねむつてしましました。少しさむいなどおじいさんが目をさますと、そこは海のまん中だつたのです。おじいさんがすんでいるりくが、どこにも見えません。こまつたおじいさんは、だれもない海で一人たすけをもとめました。

しばらくすると、船の後ろの方からぼちゃんと水の音がしました。おじいさんがあわててふりむくと、いっぴきのイルカが水の中から顔を出しています。おじいさんはイルカにおねがいしました。「なあ、イルカさん。どうかこの船をりくの方におしてくれないかのう。」

すると、イルカはおじいさんの目の前でくるんとまわってジャンプをすると、水の中にもぐりました。そして、船をおしはじめたのです。船はぐんぐんスピードをあげてすすみます。イルカも楽

しそうに船のよこでジャンプします。おじいさんは、イルカのおかげで家に帰ることができました。

(1) おじいさんは、なぜ海のまん中にいたのですか。□に入ることばを書こう。

ぽかぽかと

の上で、ついうとうと

の当たる

しまつたから

(2) おじいさんがふりむいたとき、そこには何がいましたか。



(3) おじいさんは、イルカのおかげでどうなりましたか。□に入ることばを書こう。

ことができた

(4) 本文のないようと同じものを、アからウからえらぼう。

ア おじいさんが魚<sup>さかな</sup>つりをしていたら、イルカがつれた。

イ おじいさんは、少しあついなと思<sup>おも</sup>つて目<sup>め</sup>がさめた。

ウ おじいさんは、イルカに船<sup>ふね</sup>をおしてくれとおねがいをした。



つぎの文しようを読んで、どいに答えよう。

「おうい。だれかおらんかのう。」

おじいさんは、海うみにむかってさけびました。でも、だれもへんじをしてくれません。

おじいさんは船ふねの上で魚さかなつりをしていました。ぽかぽかと太たいようの当あたる船の上で、おじいさんはついうとうとねむつてしましました。少すこしあむいなどおじいさんが目をさますと、そこは海のまん中だつたのです。おじいさんがすんでいるりくが、どこにも見えません。こまつたおじいさんは、だれもいない海で一人たすけをもとめました。

しばらくすると、船の後ろの方からぼちゃんと水の音がしました。おじいさんがあわててふりむくと、いっぴきのイルカが水の中から顔かおを出しています。おじいさんはイルカにおねがいしました。「なあ、イルカさん。どうかこの船をりくの方におしてくれないかのう。」

すると、イルカはおじいさんの目の前まえでくるんとまわってジャンプをすると、水の中にもぐりました。そして、船をおしはじめたのです。船はぐんぐんスピードをあげてすすみます。イルカも樂たの

しそうに船のよこでジャンプします。おじいさんは、イルカのおかげで家いえに帰かえることができました。

(1) 目がさめてこまつたおじいさんは、何なにをしましたか。□に入ることばを書かこう。

だれもいない

で一人

をもとめた

(2) おじいさんがふりむいたとき、そこには何なにがいましたか。



(3) おじいさんは、イルカにどんなおねがいをしましたか。□に入ることばを書こう。

どうかこの

を

の方に

くれないか

(4) 本文のないようと同じものを、アからウからえらぼう。

ア おじいさんが魚つりをしていたら、イルカがつれた。

イ おじいさんは、少しさむいと思つて目がさめた。

ウ おじいさんは、イルカにいつしょにおよごうとおねがいした。



## からびかえクイズに ちよつけん。

ひらがなを ひらがなで ひらがなを ひらがな。

※ひらがなの しべるから うかがひだけ つかわらひ ひらがなが あります。

その ひらがなは 〇で かわらせましょう。

7  
レベル

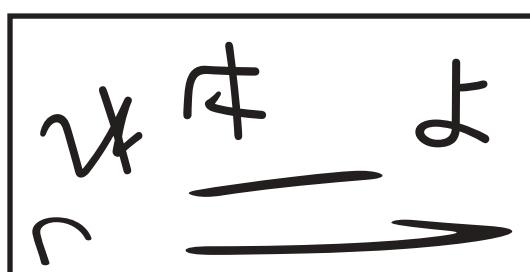
まの なか。まるい たまが たくさん。

--	--	--	--



かえ（かえ）の がめの ねん。「から」へか ねん。

--	--	--	--



れつを ひって おかしく なげとね。

--	--	--	--



かかじを そろえて せんじ だか、みのりを しゃら しゃら。

--	--	--	--



かの かく ねん。だ。

--	--	--	--